

諏訪地方の 経済概況 速報

2019.07

2019年6月末調査／2019年7月31日発行

SUWA AREA
ECONOMIC
OVERVIEW



諏訪信用金庫

SUWA SHINKIN BANK

諏訪地方の概況

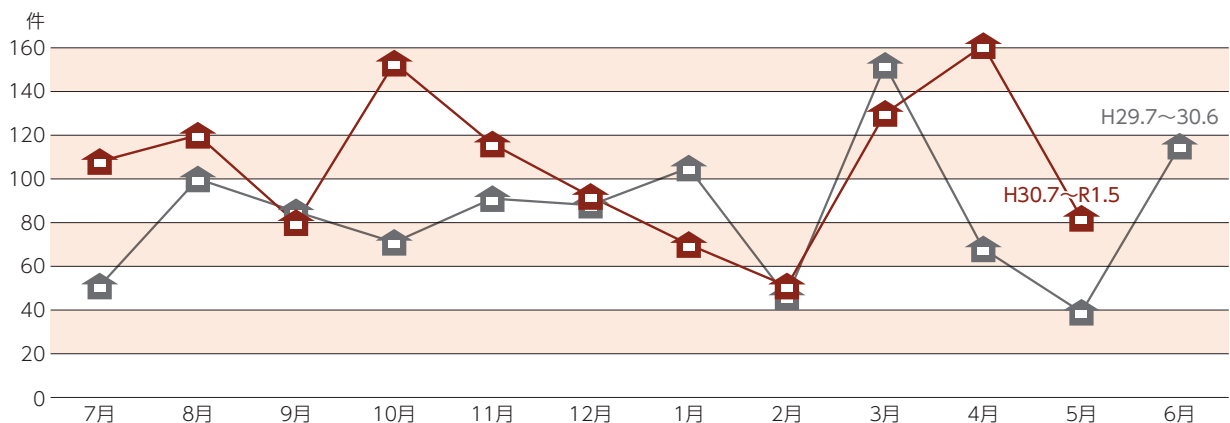
6月は、世界では米中貿易摩擦が激化し、製造業を中心に停滞感が強まった。世界の主要上場企業の1～3月期の純利益は日米欧がそろって減益となり、日本で初めて開催されたG20大阪サミットでも各国は世界経済の下方リスクを確認した。政府発表の5月の月例経済報告では外需が陰る一方、雇用情勢や企業収益は堅調で「経済の基礎的条件はしっかりしている」として「緩やかな回復」の判断を維持した。一方で、内閣府発表の6月の消費者態度指数では、貿易摩擦の激化に加え、生活に身近な物の物価上昇や消費増税に対する意識などで消費者心理は後退している。

こうした背景で、諏訪地方では、製造業は総体的な減速傾向が続き、米中貿易摩擦に対する懸念が強まっている。非製造業は、商業で製造業の停滞による消費マインドの低下が見られ、観光業は10連休の反動や天候の影響があった。建設業も消費増税前の駆け込み需要が高まっていない。

(諏訪信用金庫の取引先約130社へのヒアリング調査による取りまとめ)

		実 数	前年同期比
有効求人倍率【5月】(諏訪公共職業安定所管内)		1.53倍	△0.11ポイント
手形交換高【6月】(諏訪手形交換所扱)	枚 数	3,256枚	△519枚
	金 額	3,923百万円	△721百万円
	うち不渡り発生状況	枚 数	0枚
		金 額	0千円
車庫証明取扱件数【6月】(諏訪地方合計)		902件	△7.6%
新設住宅着工戸数【2019年4～5月】(諏訪管内)		243戸	127.1%

■新設住宅着工件数の推移(諏訪地方合計)



製 造 業

「受注が安定せず、先行きに不透明感」

米中貿易摩擦と中国経済減速による輸出停滞の影響が広がっている。内閣府発表の5月の機械受注統計では、外需が2ヵ月連続で減少し、民需も前月比で減少した。海外経済の影響を受けやすい汎用機械や生産用機械の減少が全体を押し下げた。また、日本工作機械工業会発表の6月の工作機械受注額は、好不況の目安とされる1000億円を32ヵ月ぶりに下回り、マイナス幅も広がった。メーカーには実需を底堅く見て下期に設備投資を期待する見方があったが、二番底の懸念も出ている。

諏訪地方では、海外要因が大手企業や取引先企業におよぼす影響が測りきれず、先行きに不透明感を持つ企業が多くなっている。取引先から生産計画の中止や発注延期を受ける企業も出ている。ただ、減速はしているものの、極端な落ち込みまでには至ってはならず、前々年度の水準程度で推移している企業が多い。

金属製品 プレス、メッキ、熱処理など	IT、半導体、省力化機械向けなどの量産物の受注は、総体的に減少傾向で推移している。自動車関連は量産に向けた試作品はあっても、取引先からの発注量が乏しい状況が続いている。ただ、低燃費エンジン関連の部品の需要は落ちず、海外需要もある。先行きも厳しさが予想されるが、一部で量産スケジュールが決まり復調の兆しが見られる企業がある。
一般機械 工作機械、専用機械、省力機械、検査機械など	省力化機械は比較的堅調だが、幅広い分野から旺盛な受注が続く企業がある一方で、一部継続案件の中止や延期が発生している企業もある。取引先ごとに設備投資への温度差があり、大手メーカーからのコストダウン要請もある。工作機械は、スマホやロボット関連の減少傾向が続く。自動車部品関連も下降気味で、取引先からの減産依頼が見られる。先行きの見通しには依然、不透明感がある。一方、医療用検査機器部品は旺盛な動きとなっている。海外の金利動向や米中貿易摩擦の影響を懸念する企業が多い。
電気機械 家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、半導体関連など	半導体関連や通信機器関連は全体的に、ピーク時から減少傾向が続き、先行きは不透明。ただ、半導体関連は一時的に回復した企業がある。プリント基板関係は全体的に落ち込み、回復していないが、量産物ではなく、付加価値が高いものは好調を維持している。EV電池関連の受注は好調。5Gに向けた動きも出ている。
輸送用機械 自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など	自動車関連の受注は、安全運転装置関連で増加している部品があるが、景気減速による生産調整があり、総体的には春先から減少傾向となっている。大手企業には発注を抑制する動きもある。月によって受注が変動して安定せず、先が読めない状況が続いている。海外向けは、先進国のEV需要、新興国のガソリン、ディーゼル車需要の動きは変わらない。自動車エアコンの部品は好調が続く。SDGsなど環境に配慮した動きがあり、世界基準の取り組みを検討する企業が増えている。
精密機械 時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など	工業用センサーレンズは活発な動きを維持している。中国の映画館向けプロジェクター関連も好調。自動車光学関連は付加価値の高い光学機材が好調だが、業界では車種の再編や車載の共通部品化が進み、今後、需要が減少する見方もある。一眼レフカメラには一服感が出ている。総体的に、一時的な受注はあっても安定せず、米中の展開次第で受注動向が変わる可能性もある。
製造業全般	鋼材加工は、一時の忙しさはなくなり、前年同月の水準までには至っていない。半導体関係が減少し、自動車向け金型用材の動向も鈍化している。半面、医療品、食品関係に設備需要がある。リーマン・ショック時のような極端な落ち込みはないと見られ、当面、現状程度の受注、売上で推移する見込み。寒天はテレビ放映の影響で販売は堅調に推移しているが、原材料の高騰が懸念される。

商 業

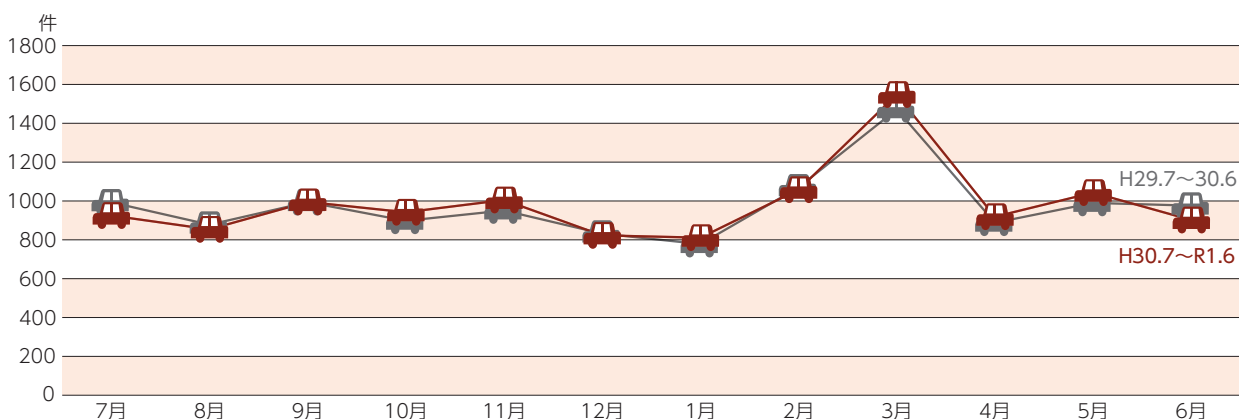
「製造業の減速に懸念」

6月は10連休の反動や天候不順で、小売店や飲食店などでは客足が鈍った。製造業の景気動向が来店客数や売上に影響することから、前年同期に比べて減速傾向となっている製造業の状況を気にする事業者が多い。こうした中、軽減税率対応レジの導入など、消費増税対策が進められている。

諏訪地方では昨年の猛暑を受け、公立保育園や小中学校へのエアコンの設置が進んでいる。一般家庭でも高齢者世帯を中心に、例年より早めの設置需要がありエアコン販売は好調だが、設置業者不足も見られる。

大型店	景気の不透明感から消費者の節約志向が根強く、必要な物以外の購入が少ない。茅野市で新たな出店計画が浮上した。
食料品	野菜は5月からの気温上昇と適度な降雨で生育が良く、価格は下落傾向だった。ただ、九州地方の大雨が及ぼす影響が懸念されている。
家電	エアコンは冬の灯油価格や注入作業の手間などから冷暖房型の商品が主流。
自動車	諏訪地方の6月の車庫証明件数は902件で、前年同月比74件、7.6%減少した。
飲食店	売上が増加した5月の連休の反動や月後半の天候不順などで、6月は宴会やフリー客などが減少した。
書店	老後2000万円問題が話題になり、財テク関連の本の売れ行きが伸びている。小諸市出身の経済ジャーナリスト、荻原博子さんの本が売れ筋。
タイヤ専門店	大手メーカーが物流コスト増による値上げを発表。駆け込み需要が見込まれる。
靴店	月の前半は天候が良く夏物商品が売れたが、後半は雨が多く売れ行きが鈍った。
ガソリンスタンド	5月、6月と値下がりしたが、7月は値上がり転じる見込み。先行きは不透明な状況が続き、米国とイランの関係悪化の影響が続いている。
野菜直売所	週末の天候が悪く客足は鈍かった。雹被害で供給量が減ったものもあるが、全体的に生育が早く、トマトやキュウリなどの果菜は前年より前倒しで出荷が進んだため、7月に入って品薄傾向となった。

■車庫証明件数の推移



観光・サービス業 「10連休の反動と天候不順が影響」

6月の諏訪地方は、7日ごろ梅雨入りした。空梅雨だった前年に比べて曇りや雨の日が多く、気温も高低差があり、影響を受けた宿泊施設が多い。登山客は、八ヶ岳開山祭の週は前年を上回る勢いの人出となったが、その後失速した。予想以上に残雪が多く、気温も低下していたことが要因で、月末近くには濃霧の発生回数も増えた。また、首都圏の気温が上がらないことなどで、別荘利用者の来訪が遅くなった。こうした中、茅野市方面では、信州ビーナスライン輝く道づくり事業を機会に、エリア全体の価値を上げる取り組みが行われている。諏訪湖周辺では10連休後の反動減対策で、週末の価格や2人以上の客室価格を下げて、稼働率を上げた施設がある。

上諏訪温泉	1～4人の個人客、5～14人の小規模団体が前年同月を上回った。中規模以上の団体利用は、10連休後の反動があり、減少した。方面別では県内、東京、関東、関越方面が前年を上回った。宿泊者限定の「ホテルの里」への無料送迎プランも行われた。
下諏訪温泉	GWと夏季の行楽シーズンの狭間で、例年低調だが、学生の団体を取り込んで宿泊客数が増加した施設もある。
蓼科・白樺湖・車山・富士見等	天候不順で観光の計画がたてにくく、全体的に集客は伸び悩んだ。気温の低下で家族客が大幅減少し、山野草の生育もやや悪く、SNS上のコメントも具体性に欠けた。夏の長期予想が冷夏か猛暑かはっきりせず、経営計画が立てにくいという声もある。
諏訪大社	上社・下社合わせた6月の参拝者数は約6万4千人。前年同月比では約6千人、10.3%増加した。

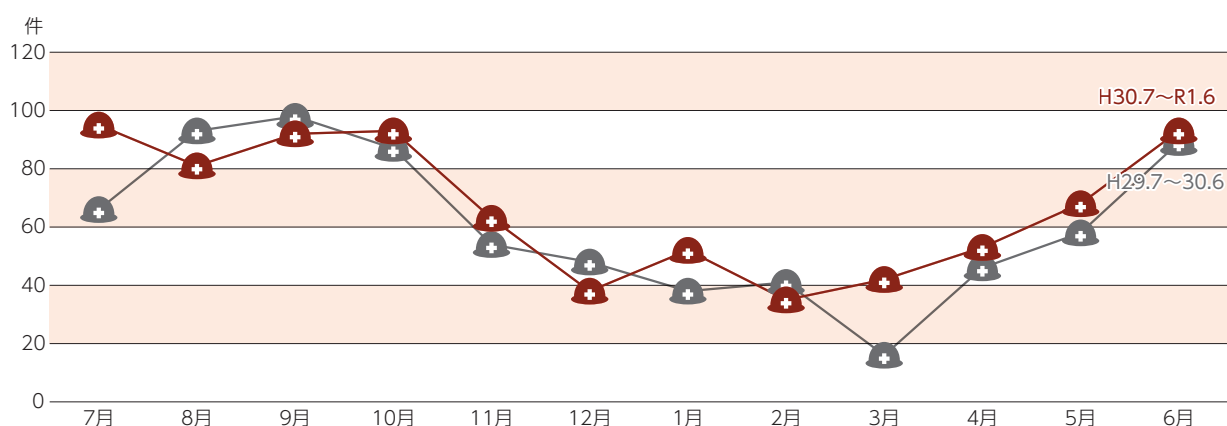
建設業

「公共工事の発注が本格化」

6月の市町村からの受注工事は合計93件、1,492百万円となった。前年同月に比べ件数は4件増加し、契約金額は742百万円増加した。国県関係の2019年4月～6月の累計公共工事（地元業者受注分）は、前年度累計比で件数、契約金額とも増加した。民間工事は、諏訪地方の5月の新設住宅着工戸数が82戸で、前年同月比43戸増加（110.3%）した。6月から公共工事の発注が本格化してきたが、前回増税時より意識は薄く、駆け込みの動きは大きくない。

公共工事	6月に地元業者が受注した国県関係の公共工事は国関係2件、諏訪建設事務所3件、諏訪地域振興局農地整備課1件、県警察本部1件、その他土木・建築工事6件の13件で、契約金額は448百万円だった。2019年4月～6月の累計は22件、1,040百万円で、前年同期の累計比で件数は8件、契約金額は434百万円増加（71.5%）した。市町村からの6月の受注工事は、建築工事5件651百万円、土木工事および下水道工事58件637百万円、その他工事30件204百万円となった。
民間工事	諏訪地方の5月の新設住宅着工戸数は、前年同月比の利用関係別で「持家」は22戸増加の59戸、「貸家」は15戸増加の15戸、「分譲」は6戸増加の8戸、「給与」は同数の0戸だった。長野県内の5月の新設住宅着工戸数は1,190戸で前年同月比31.8%増加した。前年同月比の利用関係別では「持家」は8ヵ月連続の増加、「貸家」は5ヵ月ぶりの増加、「分譲」は3ヵ月連続の増加となった。

公共工事の推移（市町村合計件数 調査・測量・設計など業務委託は除く）



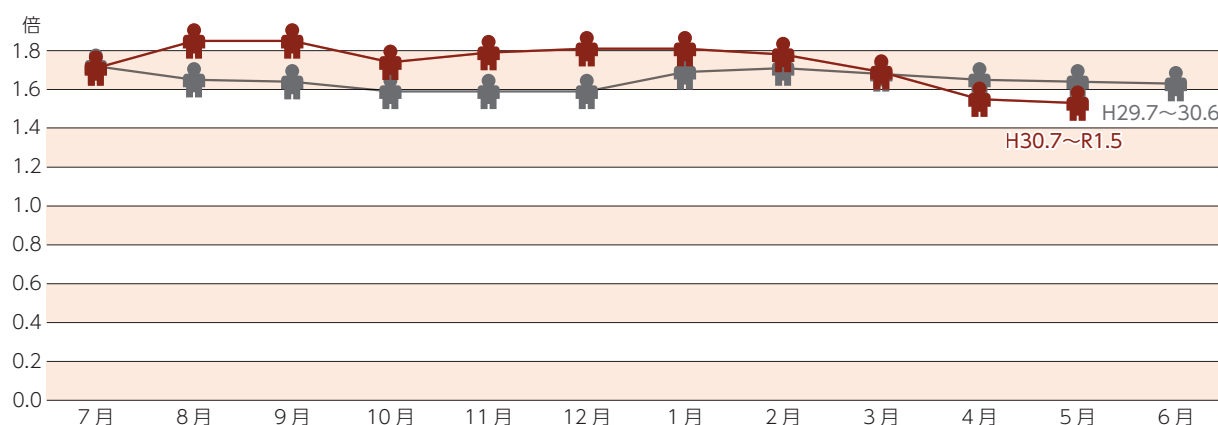
雇 用

「有効求人倍率全県、全国を下回る」

諏訪地方の5月の有効求人倍率は、前年同月を0.11ポイント下回り、前月を0.02ポイント下回る1.53倍となった。2ヵ月連続で前月を下回り、長野県や全国より低下した。長野県平均は、前月を0.01ポイント上回る1.69倍で、全国平均は前月を0.01ポイント下回る1.62倍だった。完全失業率は前月と同じ2.4%だった。

諏訪地方の新規求人数(全数)は1,634人で、前年同月比192人減少(△10.5%)した。求人の要因別では、「継続する人員不足」「業務量増大」「欠員補充」「創業・新分野展開」の順。業種別の前年同月比の新規求人数は「建設業」「医療・福祉業」が増加し、「運輸業」が減少した。新規求職者数は752人で、前年同月比62人減少(△7.6%)した。1件10人以上の人員整理は2件だった。事業主都合による雇用保険資格喪失者は28人で、前年同月より2人増加し、前月より20人減少した。

■有効求人倍率の推移



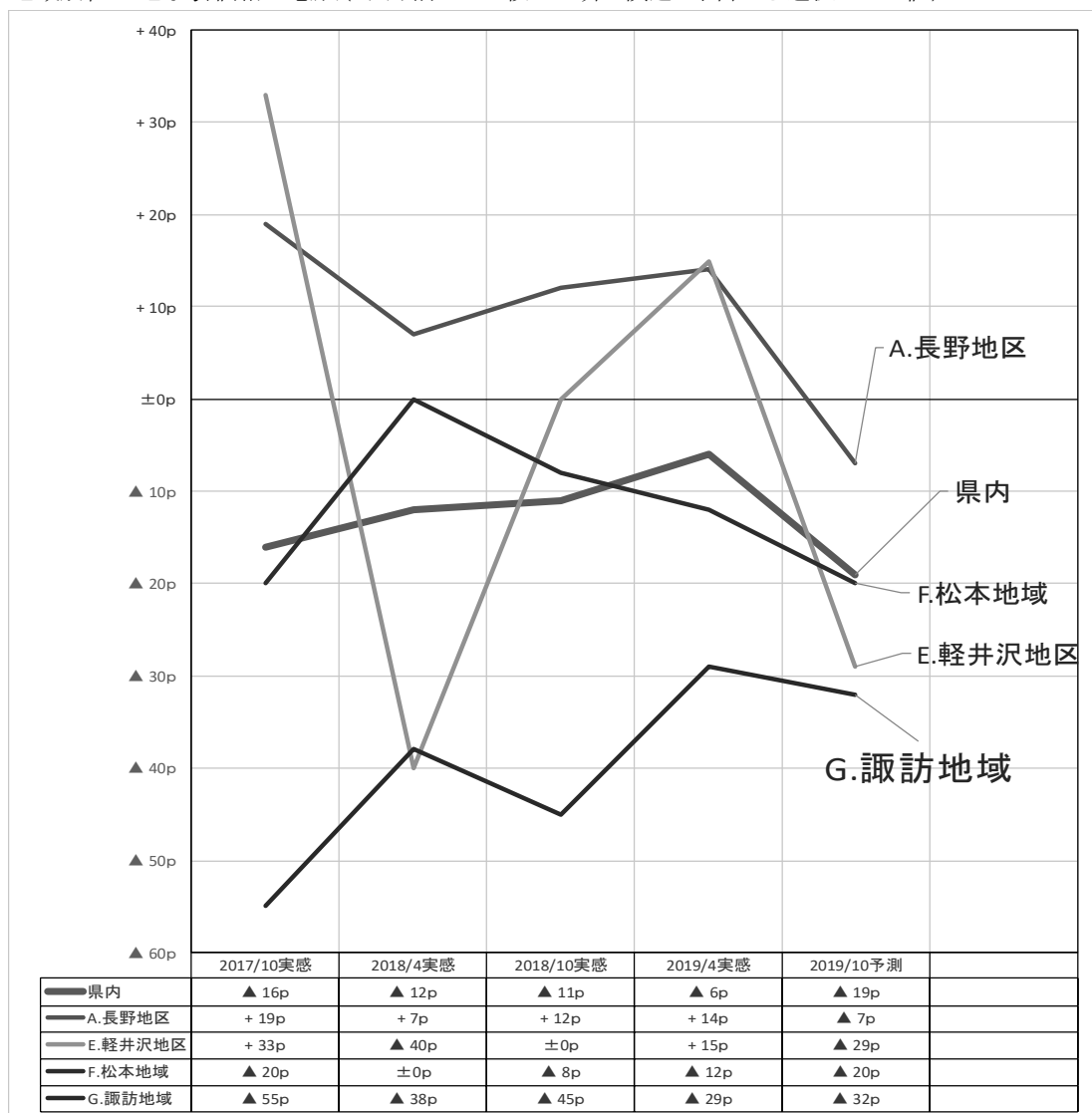
《企業のひとこと》

- 総体的に厳しい環境が続く見通しだが、現場改善で収益を確保する(金属製品加工業)。
- 取引先が先行きの景気減速を感じている。企業の営業力の違いで業況に差が出始めている(一般機械製造業)。
- 年度後半は主要大手メーカーの受注が復調する様子もあるが、実際は分からない(電気機械製造業)。
- 新規機械設備の導入を検討しているが、先行き不安で迷っている(鋼材卸業)。
- 外国人雇用管理者研修で参加者が多く、外国人雇用が進んでいると感じた(小売店)。
- リフォーム工事で職人が手一杯になり、新たな受注を受けにくい(建設業)。
- 五輪や地震関連で、資材価格、人件費、運送費、レンタル料金が上昇している(建設業)。
- 消費増税分の料金上乗せには抵抗感があり、実質的に値下げをせざるを得ない(観光業)
- 日本人の新卒は採用後の「辞めさせない取り組み」が必要で、雇用面のコスト増となる。その点、外国人は本人のやる気、熱心さが格段に違うので、文化の違いをクリアできれば日本人より使える(観光業)。

諏訪地域の住宅地価格の実感、半年後も厳しい

～第7回長野県不動産市況DI調査から～

地域別住宅地取引価格の感触(6ヵ月前との比較で上昇 横這 下降から選択したDI値)



◇諏訪地域の住宅地価格DI値の特徴

長野県全体の予測値はマイナス値であった。
松本、長野地区の予測値はマイナス圏となった。
諏訪地域は予測値、実感値ともに引き続きマイナス圏であった。

【全体】

米中貿易摩擦の長期化や中国経済減速の影響で諏訪地域の製造業は企業により景況感の差はあるものの受注が悪化している。

法人は物流施設や工場用地の取得を検討していた企業が様子見でいったん取りやめる企業が散見された。
個人の不動産売却希望は多いが、買い希望は様子見のために、いったん取りやめる行動をとっており不動産サイトには販売用住宅地の在庫が増えてきている。

【市町村トピックス】

『岡谷市』

長野県の商圏人口が3月29日に発表になった。
平成27年と平成30年を比較したものであるが岡谷市は90.2%増加(6万4千人)と最も高い伸び率となった。
レイクウォーク岡谷が周辺市町村から吸引したものと推測される。

『あずさダイヤ改正』

あずさのダイヤ改正が3月に行われた。
停車本数が下諏訪町16本から4本、富士見町が11本から4本に変更された。
観光への打撃が懸念される。
長期的には、商業地、住宅地、賃貸需要についても影響があるのか注視していきたい。

文:ハヶ岳ライフ(株) 宅地建物取引士・不動産鑑定士 朝倉宏典

出所:一般社団法人長野県宅地建物取引業協会・一般社団法人長野県不動産鑑定士協会



SUWA SHINKIN BANK

諏訪信用金庫

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

TEL 0266-23-4567 FAX 0266-23-8044

<http://www.suwashinkin.co.jp/>